

るかどうか、左表を見ることにして貰ひたい。

	総指数		
	労働人員	定額賃銀	実收賃銀
六年平均	七四・四	九一・三	九〇・七
七年平均	七四・七	八八・一	八八・一
八年平均	八一・九	八五・一	八九・二
	男		
	労働人員	定額賃銀	
六年平均	八一・〇	九一・五	九二・〇
七年平均	七九・〇	八八・八	九二・七
八年平均	八七・〇	八六・二	九五・一
	女		
	労働人員	定額賃銀	
六年平均	六八・〇	八七・〇	七〇・六
七年平均	七〇・六	八三・四	七九・九
八年平均	七九・九	七〇・九	六八・四

右表は大正十五年を基準としたもので、一年の平均指数である。これによるとインフレ現象は正に労働人員に示されてゐる。従つて失業を緩和したことだけはハッキリ

と認めることが出来る。しかし賃銀の方は就業増加に比べてひどく遅れてゐる。遅れてゐる所ではない昭和七年の賃銀は六年より、定額賃銀と実質収入も低下してゐる。昭和八年は七年に比して実質収入は一ポイント向上したけれども、定額賃銀は三ポイントも下つてゐる。この実質収入の増加は時間外労働の結果で、賃銀が上昇したのでないのだ。

これでは労働者にとつて、インフレの害はど二にもない。唯、臨時工の増加と、就業の強要と、古い高級の労働者が解雇の危機に直面してゐるだけだ。しかし若しと物價が下向きの場合ならば、賃銀が幾分低下してと物價安で相殺されるが、今度は反対に物價が上向いてゐる。

	定額賃銀	実收賃銀	日額小 賃指数
	六年	九一・三	九〇・七
七年	八八・一	八八・一	六九
八年	八五・一	八九・二	七三